

## 継続は力なり

この9月、第44回日本手工芸美術展覧会の作品公募に刺し子の作品を応募し、入賞することができた。佐渡に渡ってから刺し子という縫い物と巡り会い、その模様や用途に感銘。自分でもやってみたいと思い、独学で古い作品や本からマスターした。その経験から刺し子教室での指導をいくつかさせていただいている。

主に模様の刺しかたと描き方を中心に指導している。形あるものは作る人に任せている。藍染や緋は使えば使うほど色が変化していく。薄れた色合いも糸を刺すことにより浮世絵のように見えてくる。使い捨ての時代、自分のお気に入りを大事に使うことを心がけたい。鼓童の理念「くらす・まなぶ・つくる」を地で独走中。



たたこ館をはじめ佐渡島内で定期的に刺し子教室を行なっている。

### ● 大井キヨ子(おおいきよこ) ● スタッフ ● 新潟県魚沼市出身

1975年「佐渡の國 鬼太鼓座」に参加。1978年ボストンマラソン女子6位入賞、1979年第28回別府大分毎日マラソンに女性では大会史上初めて出場するなど、日本女子マラソン界の草分けとしても有名。また座員として初めて佐渡で家庭を築くなど、鼓童においても道を切り拓いてきたパイオニア的存在。

佐渡では「ゾンザ」と呼ばれる防寒用の分厚い刺し子着物は、降りかかる潮から身を守るための必需品であった。この佐渡の日用品であった刺し子との出会い以来、佐渡に暮らしながらライフワークとして刺し子を作り続けている。



大井キヨ子

kiyoko oji



写真 上から

- 今回の入賞した作品は「雪女(ゆきめ)」と題した2作品
- たたこ館でお客様を迎えるのれんも大井の刺し子作品
- 初夏の梅酢や梅干しづくり。まさに自然とともにくらしている
- 別大マラソンゴール直後の様子。2時間48分52秒は女子マラソンの最初の日本記録